

日本精神保健社会学会

2023 年 9 月 30 日

THE JAPAN ASSOCIATION OF

事務局：東京都豊島区西池袋 2-39-8

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上

ニュースレター第 79 号

TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240

発行人：宗像 恒次 編集人：塩谷 育子

E-mail:murakami@t-mental.co.jp

第 29 回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ

大会テーマ：『メンタルレジリエンスを育む社会』

会員の皆様には、日ごろより学会活動の運営にご協力頂き、心よりお礼申し上げます。

今年度の学術大会・総会は、昨年度に引き続きオンラインでの開催となります。今年の大会テーマは『メンタルレジリエンスを育む社会』です。参加される皆様とともに、学び、考え、語り合う 1 日になりましたら幸いです。

●開催日時：2023 年 11 月 23 日（木）祝日、10 時 00～17 時 00 分

大会テーマ：メンタルレジリエンスを育む社会

①基調講演 宗像 恒次 学会長

（筑波大学ベンチャー株式会社 SDS 代表、筑波大学 名誉教授）

②シンポジスト

○山野内 靖子 氏（東京情報大学看護学部准教授）

○山本 潤一 氏（日本メンタル再生研究所所長）

○野本 薫史 氏（日本精神保健社会学会監事

朝日パーソナリティ・センター代表）



●ツール：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催

●参加申込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）にて、氏名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、お申込みください。

●参加費：一般 4,000 円、学会員 3,000 円、学生 2,000 円

- 参加振込み： 2023 年 11 月 13 日（月） までにお振込みください。

振込名には、個人名および「参加費」とご記載ください。振込み確認後、学術大会・総会前日までに、招待メールをお送りします。運営の都合上、当日での参加はできませんので、ご理解とご協力をお願い致します。

- 振込先：ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

★研究発表の募集期間を延長しました★

1. 研究発表の募集期間と送付方法

研究発表の申し込みは、10 月 16 日（月） まで延長しました！

この機会に、皆様の日々の研究成果や実践成果など、ぜひ、お申し込みください。発表希望の方は、学会指定の抄録 A4 一枚を記載のうえ、演題名、代表者名、連絡先（電話およびメールアドレス）を記載のうえ、学会事務局（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）にメールにて、お申し込みください。

なお、抄録の定型フォーマットは、本学会のホームページに「実践報告型」、「科学研究型」をアップしています。発表形式に応じていずれかを選択・ダウンロードし、A4、1 枚にて記載してください。

3. 採択の可否

採択のご連絡は、10 月 31 日（火） までに発表代表者へメールにてご連絡します。

4. 発表要件

1) 学会費の納付

発表者全員が本学会の会員であること。また、2022 年度の年会費（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日）と 2023 年度の年会費（2023 年 10 月 1 日～）の納付済みであることを要件とします。

2) 研究発表の参加費

研究発表が採択された方は、別途 2,500 円が必要になります。振り込みは、11 月 13 日（月） までをお願い致します。振込み名には、個人名および「研究発表」とご記載ください。

シンポジウムのご案内

今回は、様々な環境下でメンタルサポートの活動をされています先生方をシンポジストとしてお招きし、お話しをして頂きます。ファシリテーターは、本学会理事、中嶋 一恵（SAT 情動認知行動療法研究所）が行います。当日のシンポジストの要旨をご紹介します。

○山野内 靖子

（東京情報大看護学部准教授）

テーマ：子ども期の逆境体験と保護的体験による青年期のこころの健康

子ども期からの逆境体験の悪影響を最小限にするためには、緩和する保護的体験や因子が必要である。近年、子ども期のポジティブな体験が、逆境体験による心身の健康への影響を緩和、もしくは改善させるという報告がある。

そこで、小児期発症の慢性疾患を抱える子どもの体験は、生命を脅かす苦痛との闘いと社会からの偏見や隔たりを伴うものであり、青年期の心身の健康にどのように影響するのか検討した。調査では、子ども期の活動体験と慢性疾患を抱えることは体の痛みを弱め、その体の痛みの弱さは精神的健康に正の影響を与えていた。また、子ども期の心身の痛み体験と慢性疾患はレジリエンスを低減させ、レジリエンスは精神的健康に正の影響を与えていた。今回は、子ども期の慢性疾患を抱える体験と青年期のこころの健康との関係への考察を深めたい。

○山本 潤一氏

（日本メンタル再生研究所/（有）光海カンパニー 代表取締役/所長）

テーマ：企業の効果的なメンタル対策を根本的に考える

私は、日本メンタル再生研究所/（有）光海カンパニー（テルミカンパニー）の代表として、1990 年代中盤あたりから経営者個人向けのメンタル支援を行うと同時に、企業向けにメンタル対策支援のサービスを提供してきました。

2015 年からストレスチェックが義務化されましたが、現状、メンタル対策はうまく行っているとはいえないのではないか、と感じております。

メンタルに問題をもつ方々は減っているどころか、ますます増えている様子です。

いったい何が問題なのか、どうすればよいのか、について私なりに考え、その考えに基づいて企業向けにサービス提供をしておりますので、これまでの経験を踏まえてお伝えさせていただき、皆様のご意見などもおうかがいできればと思っております。

○野本 薫史 氏

(日本精神保健社会学会監事 朝日パーソナリティ・センター代表)

テーマ：日本文化の特性を活かしたメンタルレジリエンスの育て方についての検討

現代社会は急速に変化してきている。コンビニエンスストア、ウーバーイーツに代表されるような宅配やインターネットを利用した通販、zoom によるリモート勤務、スマホなどのキャッシュレスによる買い物など人々の生活が急激に変化している。我々の生活がコンピューターや IT の発展により便利になっていくことは喜ばしいことでもあるが同時に大切なものを失っていく危険性もある。心理相談面接を行っていて、以前は対人関係での悩み、例えば人前で緊張したりという 対人恐怖的な相談や、生きる苦しみとでもいうような実存的な悩みの相談が多かった。しかし最近は以前といささか違って、IT 関連に由来する悩みや相談事例が多くなった。そしてそこには人間性の喪失や感情の鈍麻、ストレスに対する耐性の欠如などがあるような気がする。戦後、日本は急速に西洋化を推し進めたが、西洋的なアプローチでレジリエンスを育めるのか？IT が進んでいく社会でメンタルレジリエンスをどのように育くんだらよいのか。日本文化のもつ特性を活かしたアプローチを考察してみたい。



理事の現場から—私の現場：過去とこれから—

○殿山 希

(筑波技術大学 名誉教授)

会員の皆様、こんにちは。お元気にお過ごしでしょうか。私は今年の3月31日に22年間勤めた視覚に障害のある人のための筑波技術大学を定年退職して、今は自宅のある札幌市におります。

2020年2月上旬、米国の研究者との段取りも整い、旅行会社に渡航費を支払う期限の日、ダイヤモンド・プリンセス号が横浜港で足止めを食らいました。やっと実った渡航でしたが断念しました。そのひと月後から2年間、鍼灸学専攻長として社会と職場の大きな転換の中で専攻のあり方を考えることになりました。

コロナ禍の鍼灸学専攻長に始めに突き付けられたのは「授業は原則オンラインで実施。しかし、実習はオンラインでできるのか?」という命題でした。初学者の技術の獲得は対面の実習でしかあり得ない、そのための感染予防対策は万全に行い得る、というのが専攻の解答でした。また、3年次後期から4年次で行う附属医療センターでの臨床実習（患者様の治療に参加する実習）は、診察力や治療技術だけではない、医療専門職として大切なこと《患者様との関わりは難しく、唯一無二の関わり合いであり、それは共感・思いやり・励ましに基づいていなければならないということ》を専門家の仕事を通して認識する機会でもあります。日頃の健康管理、実習室入室前の体調チェック、正しい手洗い、マスク・フェイスシールドの着用、換気、人との距離の確保などの徹底と、感染動向を見ながらの時間割編成の調整で乗り越えることにしました。勿論、それに先立って学生の理解促進・生活場面での行動変容に向けた徹底的な指導は必要です。その結果、2年間、専攻内学生の感染者はゼロに抑えることができました。私は専攻の教員・職員・学生の全ての協力に感謝しています。

そんな折に「オンラインで教育ができない鍼灸あん摩マッサージは古い。他の専門に変更したらよいのではないか」との声が学内から上がったことに私は驚きました。視覚に障害のある人に対する鍼灸あん摩マッサージ教育が成功したのは世界広しと言えど日本だけです。全盲の杉山和一によって視覚に障害のある治療師の養成の場が1682年に創られました。これが世界で最も早い障害者の教育であり、ピア・メンター（同じ障害を持つ指導者）が活躍する場でした。それが明治以降は欧州からの教育制度の中で盲学校の職業課程

へと引き継がれ、いよいよ高等教育へと進展しました。私は 1991 年に現在の筑波技術大学の前身である短期大学が開学した時、今後は鍼灸あん摩マッサージが学術として展開していくことに大きな喜びを感じたものです。残念ながら、科学化も学問化も未だ途上ですが、その価値は一步ずつ証明されていくことと確信しています。

やっと重責から解かれた最後の 1 年はあっという間に過ぎました。コロナ禍で開催をあきらめていた最終講義の実施が年明けに決定し、大急ぎで研究結果や思い出の写真などを並べてパワーポイントができた時、私は歩みの遅い亀ではありますが、元気にその日を迎えられることに安堵いたしました。多くの方々の理解と支援あつてのものと感謝しております。

これからは、私の"現場"は職場ではなく、まさに、もっとずっと広い"社会"となります。これからも社会のメンタルヘルスを注視していきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。2022年度の年会費は、2022年10月1日から2023年9月30日の期間です。また、2023年度の年会費は、2023年10月1日から2024年9月30日の期間です。2023年度の年会費のお支払いをお願い致します。なお、2022年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願い致します。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000円 学生会員 3,000円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

ニュースレター寄稿のお願い

年に3回発行するニュースレターに、会員の皆様からのご寄稿を心より歓迎いたします。テーマは、学会への思いやご自身の活動など学会に関連することでしたら、どんな内容でも結構です。

文字数 : 500～800前後

発行時期 : 6月、9月、12月を予定

原稿締切 : 発行の1ヵ月前を目安に事務局にお送りください。

(氏名、電話番号、メールアドレスをご記載ください)



日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局 担当：村上

TEL: 03-3986-3220 FAX: 03-3986-3240 E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金：5,000 円

会 費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名：日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男 ・ 女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
自宅住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
所 属 系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			